

## ボーダレスな日常

公共政策学部 准教授 服部 敬子

「二人も三人も一緒よ!」「年が離れてたら上の子が下をみてくれるし」というセンパイ方の言葉と温かい職場のご理解に後押ししてもらって、3児を産み育てることになりました。が…みなさんきつと、「喉元すぎれば…」で、子どもたちが小さく可愛かった頃の「よき思い出」だけが上書きされたのでは?と思わずにおれない今日のご様子。

子どもが2人の時と3人の時とを比べると、食事の準備・片付け、洗濯物、仕上げ歯磨き、モノ量・ケンカ量が1.5倍になり、どう考えても「一緒」ではなく…。しかも大食漢揃いで、3歳の末っ子まで「お父ちゃん分、残す〜?」と聞くようになり、ひっしのばちで大皿料理を3品作っても、帰宅した夫が「今日のおかずは何やったん?」と聞くような“残骸”しか残らないこともしばしば。年が離れていると、学校、学童クラブ、スポーツ少年団、保育園、と所属がバラバラになり、それぞれに保護者会の役があるので、夜の会議や休日の行事でバク状態です。

しかしながら、仕事との両立上、助かっているのは、夫が同業者で仕事関係はツーカー、洗濯物をピシッと干してお風呂をピカッと仕上げてくれることと、私の研究上、子どもたちが「教材その1、その2、その3」として役立ってくれることです。後者に関しては、観察・

記録をするためのビデオカメラやレコーダー、鉛筆とメモ用紙が部屋のあちこちに常にセットされています。運動会などの行事ではつい、年齢・学年による違いや指導が難しそうなのを観察してしまい、「あ、うちの子どこ?」ということも…。

そんなこんなで、私にとっての「OFF」は「子どもが目の前にいない時」なのですが、子どもが寝てからその日の観察記録をデータベースに入力したり原稿を書いたりするので、本当に「オフ〜♡」と感じるのは、うたた寝したり好きな本を読んだりできる大学病院での待ち時間です(月1〜2回、待ち時間たっぷり)。

今年度前期は組合の要求が実現して「研究専念期間」をいただき、密度の高いフィールドワークや日中の読書・自由時間が確保され、次女が算数でつまづいていることに気づくこともできました(^\_^)。後期から元の生活に戻るのがコワイのですが、育メン先駆者の副学長のO先生や、出会うたび「おかささんっ、お元気ですか?」と明るく声をかけてくださるN先生をはじめ、体調や子どもたちのことを気遣ってくださる多くの先生方を心の支えに感謝しつつ、ワーク・ライフ・バランスの実現をめざしていきたいと思っています。

はっとり・けいこ

専門は発達心理学、保育学。院生同士で結婚、宮崎大学と岐阜大学という遠距離職場から徐々に近づき、現在は府立大と京大で勤務。子どもは小5、小2、3歳になりました。ここ数年、持病の関係で通院中。大きなマスクを常時愛用しています♪



# Newsletter

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

## 若手研究者・大学院生のための メンター制度が始まりました

男女共同参画推進室では、女性研究者研究活動支援事業の一環として、10月よりメンター制度を創設しました。ぜひご活用ください。

### メンター制度とは?

研究職としてのキャリアをめざす若手研究者、大学院生のみならずのために、本学教員が「身近な経験者」「よき理解者・助言者」となって、若手研究者、大学院生が自ら考え、気づき、行動することができるよう、対話による助言によって支援する制度です。

### メンター制度の特徴

- ・研究職としてのキャリアをめざす人が、経験者との交流を通じて、自分の目標を具体的にイメージすることができます。
- ・研究とライフイベント(出産・育児・介護等)の両立のために、経験者から直接話を聞くことができます。

## 数字で見る! / 府大の男女共同参画

第2回 常勤教員の男女比率

2014年11月1日現在

	文学部 女性割合 20.0%		公共政策学部 女性割合 16.6%		生命環境科学研究科 女性割合 15.0%		教員計	
<b>教授</b>	男性 15名	女性 3名	男性 8名	女性 1名	男性 34名	女性 5名	男性 57名	女性 9名
女性割合 13.6%	総数18名		総数9名		総数39名		総数66名	
<b>准教授</b>	男性 8名	女性 4名	男性 9名	女性 3名	男性 27名	女性 3名	男性 44名	女性 10名
女性割合 18.5%	総数12名		総数12名		総数30名		総数54名	
<b>講師</b>	男性 5名	女性 0名	男性 2名	女性 0名	男性 11名	女性 5名	男性 18名	女性 5名
女性割合 21.7%	総数5名		総数2名		総数16名		総数23名	
<b>助教</b>	男性 0名	女性 0名	男性 0名	女性 0名	男性 8名	女性 2名	男性 8名	女性 2名
女性割合 20.0%	総数0名		総数0名		総数10名		総数10名	
<b>合計</b>	男性 28名	女性 7名	男性 19名	女性 4名	男性 80名	女性 15名	男性 127名	女性 26名
女性割合 17.0%	総数35名		総数23名		総数95名		総数153名	

## 編集後記

11月は学園祭が開催されるイベントシーズンですね。男女共同参画推進室でも、流木祭では講演会を開催し、11月以降は稲盛記念会館のカフェで教員を囲んだ交流会や、あおいセミナー、あおいサロン等のイベントを実施していきます。公共政策学研究科OGの立場から、院生同士のつながりや、視野を広げられるような企画を目指し、私も勉強させて頂きながら企画運営に携わっています。是非、お気軽にお立ち寄りください! イベント開催の報告や推進室に関わる情報は専用WEBサイトで公開していますので、こちらもチェックしてみてください。(長谷川)

## 編集・発行

### 京都府立大学 男女共同参画推進室

〒606-8522  
京都市左京区下鴨半木町1-5  
(1号館3階)  
TEL: 075-703-5143  
E-mail: danjo@kpu.ac.jp  
HP: www.kpu-sankaku.jp



### 利用対象者(メンティ)



- (1) 本学の女性の大学院生・学術研究員
  - (2) 本学の女性常勤教員
  - (3) 本学有期雇用教職員就業規則の適用を受ける女性の特任教員・研究員
  - (4) その他、男女共同参画推進室長が必要と認める者
- ※男性でご希望の場合はご相談ください。

### 相談者(メンター)



女性常勤教員のメンター登録者 17名  
男女共同参画推進委員会委員 9名  
※メンター一覧は、男女共同参画推進室のホームページに掲載  
※平成26年10月1日現在



1 **お申込み** 電話またはメールで男女共同参画推進室へお申し込みをお願いします。

2 **メンター紹介** 希望の相談内容を踏まえ、メンター(本学の教員等)を紹介いたします。

3 **日程の調整** メンターと相談希望者(メンティ)とで直接、日程等の調整を行います。

4 **メンタリング** メンターの研究室でメンタリング(相談)を実施します。

5 **報告** メンタリング終了後、利用報告書を推進室までご提出ください。

## 第2回メンター勉強会を開催

メンター制度の創設に先立ち、本学の中村 佐織 公共政策学部福祉社会学科教授を講師に、第2回メンター勉強会「メンタリングの基礎〜対人援助の技法を学ぶワークショップ」を開催しました。

日時 8月7日(木)14:30 ~ 16:00 参加者 18名(教員12名、職員6名)

お申込み: 男女共同参画推進室  
☎ 075-703-5143  
✉ danjo@kpu.ac.jp

短信  
参画推進室  
男女共同  
活動報告



女性研究者研究活動支援事業

研究支援員制度

研究支援員制度後期利用者が決定しました

男女共同参画推進委員会で選考した結果、10名(女性8名、男性2名)の支援対象者(研究者)が決定しました。利用内訳は、妊娠・出産1件、子の養育7件、介護2件です。研究支援員(本学の大学院生等)は13名です。利用期間は2014年10月1日～2015年3月20日です。  
※研究支援員制度は、ライフイベント(妊娠・出産・育児・介護)により、研究時間が十分に確保できない研究者(配偶者が研究者である男性研究者も含む)を支援するものです。

研究支援員制度(前期) 利用者の声

- 研究支援員の雇用により、自分の時間も少しは確保することができており、論文の執筆に専念する時間をつくることができました。また、育児経験者の支援員には、育児での悩みなど相談することもでき精神的にも大変支えになっている。(教員・女性)
- 学生時代に所属していた研究室では扱うことがなかった資料や器具を用い研究の補助をさせていただいたことで、異なる知識や経験を得ることができました。子育てをしながら、研究活動に熱心に取り組む先生、また先生の指導の元、自発的な院生や学生が沢山おられる研究室で仕事をさせていただいたことは、自分にとって意義深いものとなった。(研究支援員・女性 本学農学部出身)

若手研究者育成事業(あおいプロジェクト)

大学院生のための英語論文スキルアップセミナーを開催しました

9月8日(月)、22日(月)、29日(月)13時から17時40分まで、野口ジュディー津多江氏(武庫川女子大学薬学部教授)を講師に開催しました。英語教育における世界的な傾向や、論文を書くための情報収集などの下準備について説明を頂き、研究論文に適した英語について、コーパス分析の手法を用いて実践的に教授いただきました。また、受講生は実際に各自の研究論文のタイトル、abstract、introductionを作成し、全員が確認できるPC画面上で、個々の英文を添削頂くというインタラクティブな講義が行われ、満足度の高いセミナーとなりました。

- 参加者 第1回 17名(大学院生7名、学部生3名、教員4名、研究室補助員3名)  
第2回 12名(大学院生6名、学部生2名、教員2名、研究室補助員2名)  
第3回 7名(大学院生4名、教員3名)

若手研究者育成事業(あおいプロジェクト)

第4回「あおいセミナー」を開催しました

- テーマ HIV-1由来の酵素の構造原理の研究とアメリカの大学院教育～女性研究者が語るアメリカの研究事情～  
日時 7月18日(金)13:30～14:30  
講師 伊島 理枝子氏  
(Department of Structural Biology, University of Pittsburgh School of Medicine)  
参加者 12名(学生・大学院生10名、教員1名、職員1名)

意識啓発

ワーク・ライフ・バランスセミナーを開催しました

学内でのワーク・ライフ・バランスの浸透を図るため、9月4日(木)10:00～12:00に、「これからの時代の働き方を語ろう!～「イクメン」男性本音トーク～」を開催しました。参加者は26名(学部生7名、教員11名、職員8名)の参加がありました。



キーノートスピーチ「イクメン・イクボスが職場を変える」では、NPO法人ファザーリングジャパン(FJ)理事の東浩司氏を講師に迎え、「笑っている父親を増やす」ことをミッションとしたFJの活動紹介の後、育児は「働き方」を見直すチャンスであること、ワークとライフの相乗効果がビジネススキルの向上につながること等、講演がありました。  
続いて、体験談「子どもが産まれた、さて、どう動く?」では、公共政策学部福祉社会学科の朝田佳尚講師、生命環境科学研究科環境デザイン学科の鈴木健二准教授から、時間管理の工夫、上司の理解の重要性、配偶者とのパートナーシップ、「共同参画」の美点強調されがちな社会でそのリスクを検討する必要性などが提起され、多角的な視点で論じられました。

「これからの生き方・働き方 多世代本音トーク」では、3名に加え、若手代表として生命環境学部環境デザイン学科3回生の和田優人さん、男女共同参画推進室の長谷川里奈がパネリストとして参加。「正規・非正規の雇用システムに問題があるのではないか?」という率直な提起を含めて議論がなされました。

参加者からは、「イクメンという言葉がもてはやされることに違和感を持っていたので、イクメンを死語にする、という東さんの言葉には感銘を受けました」「男女共同参画のリスク、ということは今までに考えたことがなかったので、もやっとしていたすっきりしない部分が見えたように思いました」「先生が育児をする姿に好感が持てました」などの感想が寄せられました。

自主事業

オープンキャンパスで「女性のキャリアデザイン」トークセッションを開催しました

本学のオープンキャンパスでの初めての試みとして、女性のキャリアデザインをテーマにトークセッションを実施しました。

「文系女性のキャリアデザイン～公務員を目指す高校生へ～」

- 日時 7月19日(土)14:40～15:30  
講師 奥谷 三穂氏(京都府文化環境部環境・エネルギー局理事)  
参加者 24名(高校生とその保護者)

「研究者を目指す・大学院で学ぶ」

- 日時 7月20日(日) ①10:00～10:50、②14:40～15:30  
講師 稲葉 理美さん・佐生 愛さん(生命環境科学研究科 博士後期課程2年)  
参加者 ①28名、②6名(高校生とその保護者)

感想

- 好きなことをつきつめて行けば仕事の中で道が開けていくという話に感銘しました。
- 大学院生の生の声がきける機会は滅多にないのでよかったです。
- おもしろかったです。自分の好きなことを一生懸命研究して結果を出されていることがすごかったです。
- 高校の先生も研究の面白さを語ってくださったので、今日のこの機会ですら研究の楽しさがわかりました。

学童保育「夏休み府大キッズLabo」を実施しました



教職員のワーク・ライフ・バランス支援の取り組みとして、8月4日(月)から6日(水)の3日間、学童保育「夏休み府大キッズLabo」を開催しました。教職員の小学生の子どもたち10名が参加しました。当日のプログラムは本学の教員や学生の協力があり、「紫キャベツで色の変化を楽しもう」「日光写真を作ろう」「ホットアイスを作ろう」の科学実験や「いりこの解剖」(食育)など盛り沢山。子どもたちからは、「学校ではできない実験ができて良かった」「セミの抜け殻を集めたり、カブトムシを捕まえることができて楽しかった」、保護者からは「夏休みの宿題が進んで助かりました」「夏休みの自由研究に役に立ちました」「研究者という仕事や、小学校と大学の違いが少し理解できたようです」等の感想が寄せられました。

三大学教養教育共同化授業「現代社会とジェンダー」論にて登壇しました

7月24日(木)14時半から16時、三大学(京都工芸繊維大学・京都府立医科大学・京都府立大学)による教養教育共同化授業「現代社会とジェンダー論」第14回において、京都府立医科大学男女共同参画推進センターの矢部センター長・京都工芸繊維大学の森山コーディネーターを招き、本学の鈴木コーディネーターを交えて取り組みを紹介しました。

**DVに気づいてください**  
被害経験者は約30%  
あなたにも身近な問題です  
なぐる・けるだけが暴力ではありません。脅迫や人格を否定するような精神的な暴力もあります。被害者自身や周囲の方がDVに気づくことが、解決の第一歩です。  
京都府府民生活部男女共同参画課 (TEL 075-414-4291)  
<http://www.pref.kyoto.jp/josei/index.html>

日本植物学会年会 男女共同参画委員会 報告

9月13日に、明治大学生田キャンパスで開催された日本植物学会の第78回大会のランチョン企画として、「第5回男女共同ランチョンセミナー(Living and working together: 若手研究者が直面する壁とその打開策)」が開催されました。120名を超える参加者の中、学会としての男女共同参画への取り組み、研究者夫婦の生活現状(別居、出産や育児に関する育休)の説明が行われました。若手研究者を主としたパネルディスカッションでは、フランスの雇用システム(主に教育に携わる教員と研究に携わる教員を別枠で採用し、教育・研究両方の充実を図るシステム)の紹介、任期付研究員の産休・育休の取りにくさについての討論、各大学によるローカルな取り組みの紹介などが行われました。現状の問題把握と今後向かうべき方向が具体性を持って学会員に共通認識として広まり、とても有意義なランチョン企画となりました。

武田征士  
(生命環境科学研究科 細胞工学研究室助教/日本植物学会男女共同参画委員)

今後の予定  
活動予定

詳細は男女共同参画推進室ホームページをごらんください。



流木祭(学園祭)講演会「私のワクワク仕事術!～女性が社会で働くということ～」

京都銀行で女性として初の部長となった本学同窓生(文学部文学科西洋文学専攻卒)の岡田寛子さんをお招きします。

- 日時 2014年11月15日(土) 14:30～16:00  
場所 京都府立大学 合同講義棟3階 第3講義室  
対象 同窓会・後援会・校友会、教職員、学生  
共催 京都府立大学 同窓会・後援会・校友会  
申込 参加費無料(事前申込不要)

たまごカフェ ～院生・学生の交流サロン～

- 日時 11月21日(金) 13:00～14:00  
タイトル 「男性研究者が、女性研究者と、生活すること」  
講師 中根 成寿(公共政策学部福祉社会学科 准教授)  
場所 京都府立大学 稲盛記念会館1F レストラン「京都 北山 Deli Cafe たまご」

第5回あおいセミナー

- 日時 12月12日(金) 13:00～14:15  
テーマ 「My LIFE: ～Inscrutable are the ways of Heaven～人間万事塞翁が馬」  
講師 新納 愛氏(シミック株式会社 臨床開発部)

第6回あおいセミナー

- 日時 12月12日(金) 14:50～16:00  
テーマ 「英語は話せなくても…必要なのは楽観主義、気合と時々根性?!」  
講師 原田 康代氏(東京理科大学 生命医科学研究科 分子病態学部門 テクニシャン)

第7回あおいセミナー

- 日時 1月19日(月) 13:30～15:00  
テーマ 「土壌というブラックボックスを放射光で照らす新しい試み～農学系女性研究者の挑戦～」  
講師 山口 紀子氏(独)農業環境技術研究所 主任研究員)

第4回あおいサロン

- 日時 12月22日(月) 18:00～19:30  
テーマ 「日本の草分け 京都の先輩手話通訳者と共に歩んで」  
講師 小森 典氏(京都府乙訓教育局 企画教育課主査・本学文学部出身)  
※ 京都政策研究センター「下鴨サロン」との共同開催

※所属学会の男女共同参画への取り組みの情報をお持ちでしたら、男女共同参画推進室までご一報下さい。